

(1) 会員名簿の改訂

(2) 一九六四年度大会の持ち方

(1) 会員名簿の改訂については時々必要なことはぶりの事務局でも痛感していることあります。すでに度々行われている所ですが、改めてその必要を申上げるまでもありません。先日往復はがきで会員としての去就を決定して頂くことや住所の変遷の報告等をお願いいたしました。私共としては成るべく会員として残つて頂ける努力をお願いいたしたいと存じております。

(2) 大会の持ち方は今までほぼ一定の型ができたようになります。

共同課題のため方は必ずしも毎年同じであつたとも申すことにはございませんが、従来は年報出版の事情に制約されることが大きかったとは諸兄御承知の如くであります。年報が九冊も続いて出版されたことについては時報社の並々ならぬ御厚志によるものであつますから、深く感謝しておる所であります。今回精算期が新たに年報をお受け下さる機会に、大会の持ち方について新生面を深くこれができなかどうかとすることを今年の大会で会員が抱いた感想であります。中野氏の考え方その一つであると想ります。

本研が現に当面しておる問題はいろいろありますが、村研の発展にて國する根本的問題については事務局から要望する性質のものではなく、会員諸兄のお考えにまつ事でありますから、今事務局で事務的な点で處理に苦しんでおることを皆様に申上げて、会員諸兄の御尽力をお願いいたします。それは次の事柄であります。(1) 今年の大会において来年の共同課題を決めなかつたので、こんな事情もその理由の一つであつたと思ひます。中には来年の大会を一応自由課題による研究発表とし、その中から共通のテーマに沿うて

れるものについて共同討議をするといふ複線コースが一案として出ておりました。

A 来年度大会において自由課題で研究発表を希望するか否か  
希望する場合の研究題目

共同討議を廃止するといふ考え方の方はなかつたと思いますから、それを行う可能性も気持ちもちろん誰れにもあつたと思ひます。それは村研の泊りこみ会議の特色であるからです。しかし從来は共同課題がきまつても、これに対しても積極的に研究発表をしようといふ気風が少かつたことも事実です。事務局や委員会から頼み込むといふ結果になることが多かつたと思ひます。自由課題で研究発表をする方が気が軽くなる点はたしかにあると思ひます。自由課題が余り別れ別れになつて共同討議が全然できなくなつてしまつても困ると思ひます。

こうじうことを考えて來ると来年度大会のやり方が大変むずかしくことになつてしまうのですが、ともかくここで会員諸兄が自由課題で研究発表をなさる希望がどの位あるか、その題目は何かといふととを事務局ではつきりさせておいて、その全体の中で共同討議の可能性があるかどうかを検討して見てもよいのではないかと思ひます。

もちろん、その決定までには各地の会員に右の結果を報告して、もよりもよりで話合つてもらひ、拡大委員会にかけて決定するようにしていと願ひます。こうじうやり方がよいかどうかにも問題はありますから、村研の發展のために、この「通信」をごらんになつたら是非御返事を頂きたいと存じます。